

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	社会学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 4年間の演習教育の各段階で求められる到達目標を明確化する	→ 4年間の演習教育の各段階で求められる到達目標への学生の到達度	B	B	A	A	A
2. 講義科目(3系7領域科目)の順次性・段階性を明確化する	→ 講義科目(3系7領域科目)の順次性・段階性の明示と、学生の履修状況	B	B	B	B	B
3. 初年次教育(基礎演習、社会学リレー講義)の成果を検証し、必要な改善を行う	→ スタディスキルの修得と、学部教育への展望の獲得についての教員の評価および学生の評価(授業評価)、具体的改善内容	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「演習教育の各段階で求められる到達目標についての指針」を定めており、これに基づいて各演習科目のシラバスが作成されている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各担当教員の裁量に依存する部分については、継続的に検討する必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 演習科目の評価基準の標準化をはかる。	☆
		その他	☆
			☆
目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 講義科目(3系7領域科目)の順次性・段階性の明示については、社会調査関連の科目および社会心理学関連の科目で部分的に実現している。抜本的には、2012年度にスタートした将来構想委員会で構想されているカリキュラム改編のなかで、開講科目のナンバー制の導入や初年次教育の充実などが答申され、教授会で承認された。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 本項に係る事項は、2016年度新教育課程(骨子)として成案を得た。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2016年度新教育課程表を起案する。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「基礎演習」については、全担当者から成る「基礎演習編成会議」(月一回開催)において教育効果を検討し、(教育内容および教育方法についての)必要な改善を行っている。「社会学リレー講義」については、コンピーナー(2名)を中心に、学部長室委員会および教授会において教育効果を検討し、教育方法や教育効果測定の方法などについて、必要な改善を行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 本項に係る事項は、2016年度新教育課程(骨子)として成案を得た。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 「社会学リレー講義A・B」は「社会学入門A・B」に変更する。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆